

# 第25回 日本摂食障害学会 学術集会

## 市民公開シンポジウム (日本摂食障害協会共催)

事前参加  
登録制  
参加費無料

テーマ

「当事者、家族とともにより良い診療を考える」

日時 2022年10月16日(日) 13:20~15:20(120分)

開催方法 オンライン形式 (zoom 利用) ※オンデマンド配信はございません

申込方法 学会ホームページよりお申し込みください。  
<https://jsed25.jp/public-symposium.html>



司 会 :

鈴木 眞理 (跡見学園女子大学 心理学部 特任教授/日本摂食障害協会理事長)

作田 亮一 (獨協医科大学 特任教授 子どものこころ診療センター長/日本摂食障害協会理事)

プレゼンター :

- 1) 河野瑞夏 (ミス日本 2022 グランプリ)
- 2) 武田 綾 (特定非営利活動法人 のびの会相談室)
- 3) 関口 敦 (NCNP 行動医学研究部・摂食障害全国支援センター長)
- 4) 竹内雅代 (家族会 さくらの会代表)

児童・思春期に発症する摂食障害の子ども数が増えていると言われています。特に、2020年以降 COVID-19 パンデミックは児童・思春期の子ども達の心身の健康に影響を与えていることが社会的な問題となっており、摂食障害も例外ではありません。思春期は、生活している周囲環境の影響を受けながら一人の大人として自分を確立する時期です。第二性徴に始まる身体的変化が生じ、精神的には、社会・学校・仲間集団・家族からの影響を受けながら自分を確立していきます。いわゆる「自我同一性を獲得する」時期です。しかし、成長するには大きなハードルを越えなければなりません。些細なことで親に反発していたかと思うと、その直後に甘えた仕草を見せるといった、矛盾した態度を示します。この両価性(アンビバレンツ)は思春期だからこその特徴で、成長の証ですが、時には子どもと家族の葛藤の原因にもなります。

思春期の摂食障害の子ども治療過程では、家族が子どもの心理的支えとなって治療者とともに子どもに寄り添うことが、回復の早道と考えられるようになってきました。医師や心理士、支援者にとって、当事者やその家族の目線で考えることが大切ですが、生の言葉を聞ける機会は多くありません。今回、「当事者、家族とともにより良い診療を考える」ことを目的に、それぞれの立場で摂食障害に関わっていらっしゃる専門家に登壇していただき、お話を伺います。また、総合討論として忌憚のない意見交換をしたいと思えます。

市民公開シンポジウムですので、参加は自由です。現在摂食障害で悩んでいる方、家族、学校や支援団体の方々、医療関係者等、子どもと家族のために一緒に考えましょう。